

# 令和5年度 第1学年 授業改善推進プラン

台東区立金曾木小学校

## 1 児童の状況及び実態を踏まえた課題

国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1学期のテスト結果を見ると、読むことの到達率は約9割。しかし、約1割の児童は、ひらがなを習得していないため文章の意味を理解できていない。</li> <li>・長音・拗音などの表記、助詞「は」、「を」、「へ」の使い方やかぎ（「」）の使い方を理解して、正しく文や文章の中で使うことが不十分である。</li> <li>・ひらがなを正しく読む・書くことが不十分な児童は、1割程度。</li> </ul>
算数	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「繰り上がり繰り下がりのない計算」の、到達率は8割程度。「いくつといくつ」という数の見方の理解が全体的に不十分である。</li> <li>・「長さ」の達成率は約7割程度であり、AとBの2つの長さを比較し、答えるときに「Aのほうが〇ます分長い」というような問題を解くことに課題がある。</li> <li>・簡単な文章題の解き方を学習したが、テストやノートの自力解決場面では、2割の児童が題意を捉えきれずに立式・解答をしている。問題文の読み取りとどのような場合に加法や減法を用いるかの判断に課題がある。</li> </ul>

## 2 各教科の具体的な授業改善

	特に育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む 指導方法・指導体制の工夫
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分で考えたこと、経験したことを事柄の順序に沿って正しく書くこと。</li> <li>・文章を読み取り、聞かれていることを理解して答えること。</li> <li>・楽しんで読書をし、豊かな言語感覚を養う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音読や視写を学習に取り入れ、語のまとまりを意識させ、語彙を増やす。</li> <li>・助詞や「 」の使い方を意識させ、短い文を正しく書けるようにする。</li> <li>・順序を意識させながら読むこと、イラストや挿絵と言葉を対応させながら読むことができるようにするために、段落や場面ごとに何が書かれているか大事なことを読み取り、ノートにまとめる活動を行う。</li> <li>・授業で取り上げた内容や関連する書籍を学級・学年文庫に置くようにすることで読書習慣が身に付くようにする。</li> </ul>
算数	<ul style="list-style-type: none"> <li>・題意を正しく捉え立式すること。</li> <li>・自分の考えをもち、説明する力。</li> <li>・数量や図形に親しみ、それらを日常生活に活かすこと。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・板書は、具体物、ブロック等、そして、数字や言葉を関連付けて書くことで、分かりやすくする。</li> <li>・学習した意味をより深く理解させるために、ノートに写す際も、式や答えだけでなく、簡単な図や絵、言葉をかかせる。</li> <li>・具体物を操作する活動を多く取り入れる。+や-の意味もその操作を通して理解できるようにする。その際、なぜそのように操作や立式をしたのかを、言葉でも説明させるようにする。</li> <li>・個に応じた指導を行うことで、どの児童も意欲的に学習に取り組めるようにする。</li> <li>・单元ごとのワークテストで、9割以上正答できる児童が9割以上にするために、学力向上推進ティーチャーと連携して指導の充実を図ることで、知識の定着を目指す。</li> </ul>